



◆巻頭言 私の休日

1月21日～2月11日までの3週間、息子家族の住む香港に行ってきました。

香港観光では、金箔の仏像が多数並び参道を登り建造物内には天井まで一万の仏像が並び万佛寺を拝し、二階建オープンバスでは香港島を約110分かち一周、途中白人の多く住むと云う街で昼食にジャンボピザを食べた。このバスは1日乗車券乗り降り自由、日本人でもシニア料金で利用出来た。

ランタオ島では、5.7kmのロープウェイに乗り、天壇大佛の座像を参拝しました。

又、ダン・カーターの所属するフランスチームと田中史朗のニュージーランドハイランダース戦のラグビーを楽しみ、山行はライオンロック(獅子山)495m、香港最高の大帽山957mに登ってきました。また、中国の旧正月を祝う海面から打ち上がる花火を見る事も出来ました

健康に感謝し、充実の良き旅を終えました。

(高嶋紀)



● 28年3月活動予定

①日時: 3月13日(日) 9:30～14:30

- ・集合場所: 池の下広場 ・集合時間: 9:30
- ・作業目的: 多様性保全型落葉樹林を目指した植樹
- ・作業内容: いっしんどう作業エリアA2-2,3の地ごしらえ
中尾根E6-2からコナラをA2-2,3へ移植

※お願い:移植樹(コナラ実生)を運搬するのにバケツを使います。

当日参加して頂ける方は、各自バケツを持参して下さい。

宜しくお願い致します。

☆閑話休題:国土緑化運動・育樹運動標語 最高賞より

『夢託す 小さな苗に 大きな未来』

- ・持ち物: 常備具(カマ・手ノコ・ナタ)、お弁当、飲料水、バケツ、他必需品
【持参器具】作業旗、シート、救急箱、スコップ、唐鍬、カケヤ、麻紐、添木

②日時: 3月27日(日) 9:30～14:30

- ・集合場所: 池の下広場 ・集合時間: 9:30
- ・作業目的: 景観保全型落葉樹林への保全活動
- ・作業内容: ◇午前中:いっしんどう広場港南台側林床の下草刈り(低木の除伐)
◇12時～14時半 観桜会(年度計画の確認等)

- ・持ち物: 常備具(カマ・手ノコ・ナタ)、お弁当、飲料水、他必需品
【持参器具】作業旗、シート、救急箱、剪定バサミ(大)、刈払機

(28年4月号の原稿に関し、上記活動報告は前村氏、巻頭言は上手氏、リレートークは野沢氏です。原稿の締め切りは28年3月25日(金)、押木氏迄宜しくお願いします。) 欠席される方は、メール(TOKAMI6666@aol.com)又は電話(894-2800)で山上部会長迄。

【瀬上さとやまもりの会 活動日誌】

- (1) 平成 28年2月14日(日) 春一番の強風と雨のため、作業は中止
(2) 平成 28年2月21日(日) 曇り時々薄日 9:00~12:00 瀬上さとやまもりの会各部会共同作業『瀬上沢の低木除去作業』

- 参加者: 樹林地部会 浅見、石渡、小宅、佐谷、高嶋、野沢、星野、前村、三島、渡邊富、渡部 計11名 その他「生き物部会、水辺部会、事務局
- 作業内容 溪流生物の生息環境の改善のため日陰を作り出している低木、ネザサ等の整理
- 活動内容 管理ヤード前に全員集合し、中塚氏から今回の活動の目的の説明あり。班編成後、3グループに分かれタマアジサイの剪定とアズマネザサや他灌木の除伐・刈り取りを行い、沢の光環境を整備した。前日かなりの雨が降り増水しており、作業に少し手間取ったが参加人数が多く、2時間程ですっかりきれいになった。刈った枝を集積し作業終了。



分担し作業開始



急流の対岸での作業



すっかりキレイに

- (3) 平成 28年2月28日(日) 晴れ 9:00~14:00 谷戸の子供教室、中尾根作業地の整備と伐採木の搬出

- 参加者: 石渡、伊藤、枝村、小宅、佐谷、上手、高嶋、長谷川、星野、三島、柳下、渡邊富、渡部 計13名 事務局:中塚及び谷戸の子供教室の受講生
- 作業内容: ●9時30分~11時30分
「谷戸の子供教室」(いっしんどう広場東側斜面)
①のこぎりの使い方(エコスタック作り、玉切り、コースター作り)
②間伐と下草刈り体験
●11時30分~2時
「中尾根下部作業エリアの整備と皮むき乾燥材の搬出」
- 活動内容 子供教室は大勢の親子連れの皆さんが参加し、作業エリアの山道の歩き方や用具の使い方、樹木の伐採の仕方など十分な説明を受けたあと皆楽しく一生懸命、体験に参加することができた。午後の作業は普段、なかなかできなかったつる植

物の除伐や林床の整備、乾燥材の搬出等を行った。



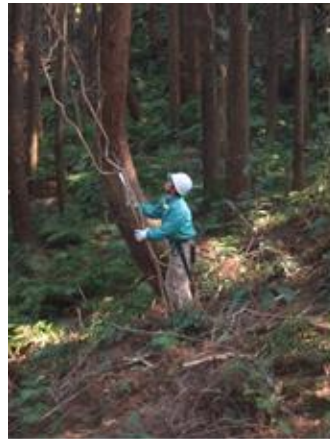
参加親子の集合写真



意欲も型も大人並



体験活動終了後の反省会



林内をおおうつる植物の除伐

◆ リレートーク 再度、大悲閣千光寺

行木 秀雄

以前、この「こじゅけい通信」No56号「リレートーク」の欄に京都嵐山「大悲閣千光寺」のタイトルで駄文を掲載して頂きました。一人旅の気安さから嵐山保津川右岸をぶらぶら歩きの途中、休み茶屋のおばさんの勧めで辿り着いた千光寺。同じく嵯峨野観光地内に在りながら周辺の賑わいとは無縁の侘いで嵐山中腹に建つこの寺を半ば肩入れ宣伝するような気持で、“京都観光の際は是非！穴場です”と書きました。

私は朝日新聞を購読していますが、今、朝刊の文化欄に夏目漱石の作品が初期発表された様式のままで掲載されています。「三四郎」から始まり「心」「それから」と続き現在「門」の掲載中です。六十年近くも昔の読書体験を懐かしみながら読んでいますが先月1月5日の掲載分を読んでびっくり驚きました。主人公である京都帝国大学学生、宗助が“郊外に出て渡月橋を渡り大悲閣へ登った”との描写があったからです。もしかして作者である漱石自身にも此の地を訪ねた形跡があるのではと疑問に思い調べてみました。

果たせる哉、明治42年10月の日記に記されています。



国鉄山陰線嵯峨駅下車。渡月橋を右岸に渡り、あのつづら折り石段の山道を登りつめ大悲閣千光寺にたどり着いています。本尊千手観世音菩薩を拝み本堂脇、仏堂の仏間から、遠く比叡東山三十六峰に続く眺めを賞賛し、保津川下り、船の櫓音を聞きながら仏間の畳の上で昼寝した様子が記されています。計らずも同じ様に手足を大の字に伸ばし疲れた体を休めた自分を思い返し、なんとも言えない懐かしい気持ちに浸りました。調べの余録で、あの松尾芭蕉に“花の山、二丁登れば大悲閣”の句があることを知りました。弥生三月、又京都に行きたくなりました。

◆ 編集後記

久しぶりにインフルエンザに罹りました。1週間程度布団の中でゴロゴロしていました。今一つウィルスの貰いところがはっきりとしません。今回使用した薬は粉薬で口から吸いこむタイプです。このような薬を服用するのは初めてです。薬の進歩に驚きました。何事も長生きをして経験するものと実感しました。(枝村)